

2-2-5 ムクドリ

全長約24cm。ヒヨドリとほぼ同じ大きさだが、全体的に黒褐色の色合いの中でくちばしと脚の橙色が目立つ。群れになって地面で採餌していることが多い。



▶ 1. 分布と生息環境

九州以北に分布し1年中見られる。以前は北海道では夏鳥であったが、道南や道央では越冬するものが増えている。また九州地方では数が少なかったが近年増えているという報告もある。

▶ 2. 食性

動物質では昆虫やミミズなどを、植物質では木や草の果実を食べる。

▶ 3. 繁殖や行動等

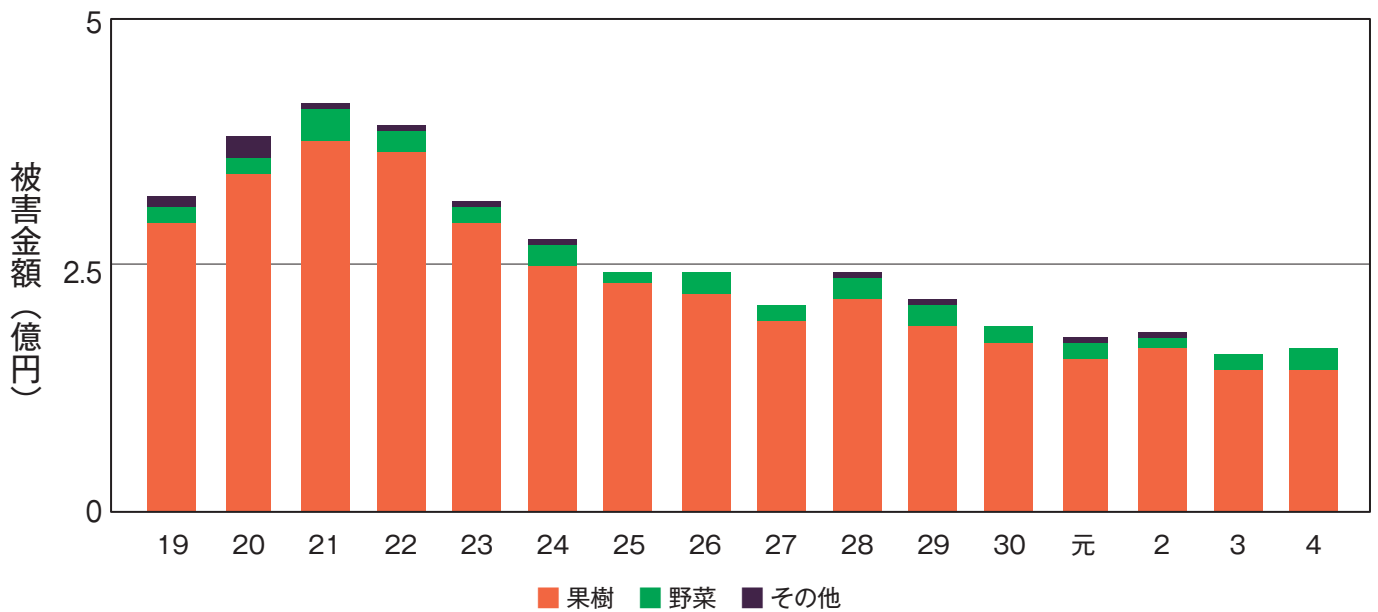
繁殖期は4～7月で年に1～2回繁殖する。樹洞だけでなく、人家の戸袋など建物の隙間に巣を作る。戸袋などで繁殖されると鳴き声、悪臭、ダニの発生などが問題となる。6月末ごろから竹林や公園の林、街路樹や駅前のビルなどにねぐらを作り、数百から数万羽が集まることもある。大きなねぐらは11月ごろまでには縮小したり、なくなることが多いが、近年では1年中ねぐらが作られる地域もある。

▶ 4. 農作物被害

近年の被害の推移を見ると、全体的に大きく減少している(図2-9)。被害の対象となる作物は果樹が主で、令和4年度の統計によると、果樹への被害は、被害量では86%、被害面積では94%、被害金額では87%を占める(図2-10)。

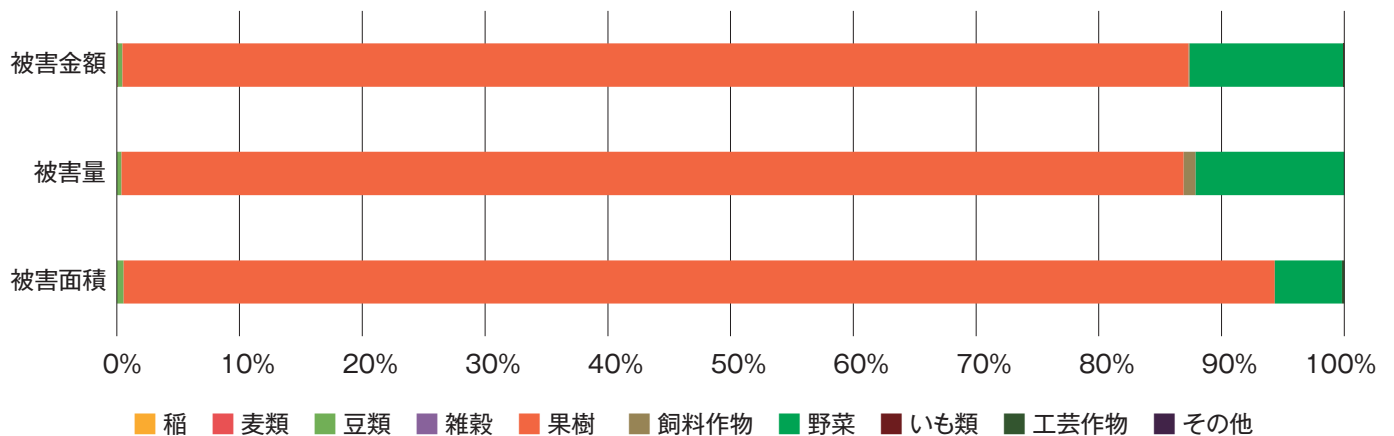
果樹では春から秋にかけてサクランボ、もも、なし、ぶどう、かきなどが食害される。ムクドリは群れで行動することが多く被害が集中することが多い。ムクドリはショ糖を好まないため、ショ糖濃度の高いかんきつ類を加害することはほぼない。

図2-9 ムクドリによる農作物被害金額の推移



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

図2-10 ムクドリによる作物別被害内訳(令和4年度)



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

5. 被害の特徴



■ぶどう

果実袋にあいた穴が小さく、カラスよりも小さいくちばしで何回も突いてあけたような形状である。ヒヨドリもくちばしの大きさはほぼ同じだが、ムクドリは物をこじ開けて中の餌を食べる習性を持つためムクドリの可能性が高い。



■かき

ムクドリが食べているところを確認した。食痕からだけではヒヨドリとの区別は難しい。虫、ムクドリ、メジロ、カラスなどによる複合被害の可能性もある。病虫害などにより果実が傷んだ部分から食害が始まることはよくみられる。



■かき

ムクドリは集団で食べに来ることが多い。